

「東京真田町の会」会報

日本タボス

平成12年12月23日



真田町立 真田中学校・新校舎

創立45周年を迎えた真田中学校は全面改築され
近代的な鉄筋校舎となりました。

内装はいたるところに木材が使用されあたたかみがあり
木の香が一杯です。現在の生徒数は412人

標高678メートル、北緯36度26分13秒、東経138度18分21秒

NO.

13

二十一世紀に向って 会長 三井芳郎



会員のみなさまにはお変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。又平素のご協力に對し厚く御礼申し上げます。去る十月二十二日の総会では、故郷真田町から箱山町長さん他十九名、羽田元総理をご来賓にお迎えして、百余名の会員の皆さんと共に第十三回総会・懇親会を盛会に開催出来、故郷の友と

和気あいあいと語り合え、楽しいひとときを過ごせましたことを重ねてお礼申し上げます。

本誌の表紙は真田中学校の新校舎であります。三階建ての校舎は鉄筋建ですが内部は至るところ木材が豊富に使われていて、とても温かいぬくもりのある校舎です。また、冷暖房完備、全教室にコンピュータネットワークが配備されており、これだけの近代設備が整っている中学校は他には例がなく、多くの学校関係者が見学に来られるそうです。

この新校舎の設計者は、真田

中学校第27回卒業の海瀬務さんです。海瀬さんに敬意を表すと共に新校舎の完成を心からお祝い申し上げる次第です。

年末には日本タボス第十三号が皆さんのお手許に届けられますが、まもなく新年を迎えることとなります。愈々二十一世紀の始まりです。

今までの百年には、めざましい経済成長の良き時代もありましたが、不況、戦争、貧困という痛ましい出来事が心に刻まれています。今までを大いに反省する必要があります。何としても、戦争はあつてはなりません、争

いは避けねばなりません。二十一世紀は平和で明るい時代でなくてははいけないと思います。

また二十一世紀は情報通信の時代とも云われています。インターネットの普及によって、正に、超高速通信時代に入ることには確実です。そしてこれからはあらゆる科学の分野で進歩発展が続けられるのでありましょう。五十年後百年後の状況は計り知ることが出来ません。

これから私達は人生を楽しみ、く過ごしたい。そのためには健康でなくてははいけません。そして親を大切にし、友を愛し、故郷を愛する心が一番大切だと思います。

東京真田町の会も会員数が頭うちになっております。皆様のお知りあい、で、会員になっておられない方がおいででしたら是非ご紹介下さい。一人でも多くの方に会員になっていただき、総会、懇親会に出席していただき、楽しかったと云って頂けるように、魅力ある東京真田町の会となるよう役員一同一層の努力をしてゆく所存です。会員の皆様のご支援とご協力を切にお願い申し上げます。

末筆となりましたが会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げますと共に、真田町の皆様のご健勝と真田町の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

森と緑やすらぎ空間構想の実現に向けて

真田町長 箱山好猷



東京真田町の会会員の皆様お元気ですか。総会の折に大勢でお伺いし楽しい一時を過ごさせていただき、ありがとうございます。また、皆様方にはいつも故郷真田町へ温かいご支援、ご声援をいただいておりますことに對し、町民を代表致しまして厚く御礼申し上げます。昨年は、21世紀に向けて真

田町はどんな目標に向かって町づくりをしているのか5つのスローガンをあげてお話ししましたが、今年はこの中で「日本のオアシスをめざした町づくり」の中心である「森と緑やすらぎ空間構想」について少し詳しく説明を申し上げ21世紀の真田町についてご理解をいただきたいと思っています。

真田町に住んでいる一人ひとりが「住んでいてよかった」と誇れるような町、そして、誰でもが「住んでみたい」と思うような「自然環境に恵まれた住み

よい町」を実現するため、いろいろな施策を掲げています。

「森と緑やすらぎ空間構想」はこのような町づくりを進める為に、美しい自然環境に優れた景観が兼ね備わった、言わば公園のような「やすらぎ空間」の中に、私たちの家や公共施設などが配置されている町をつくり、その中で町民が潤いを持つて生活し、都会の疲れた人々の心も癒してあげたいという構想で、町民・事業者・町が一体となつて、その一つ一つの小さな行動や心がけによって住みよい真田町をつくらうとするものです。

「意識の高揚と推進体制づくり」

町民が「住んでいてよかった」と誇れるような町づくりをする為には、町民一人ひとりが自らの地域を住み良くしていこうという意識が大切ですし、町の自然や歴史、文化等に関する意識高揚施策と全ての皆さんが参加する体制づくりを推進します。

「身の回りの条件整備」安心して生活ができ、潤いとやすらぎを感じることが出来る身の回りの条件整備を推進します。

「自然・環境の保護・保全」町の豊かな自然環境は、私たちの宝物であり、町の誇りです。これを護り、子や孫に伝えることが、私たちの責務です。

「景観形成」美しい景観は、町に住む私たちの心を和ませると共に、訪れる皆さんの心のオアシスとなります。自然との共存に配慮し、人にやさしく、景観にすぐれた町づくりを推進します。

どうか皆様この構想が美しい花を咲かせ、すばらしい実をみのらせ21世紀の真田町が「日本一の住み良い町」となることを楽しみにしていってください。

結びにあたり、皆様の一層のご支援をお願い申し上げますと共に東京真田町の会の益々のご発展と会員皆様のご健勝ご多幸をお祈り申し上げあいさつと致します。

議長就任のあいさつ



真田町議会議長

佐藤 公至

このたび真田町議会議長に選出をいただき大任を担うことになり身の引き締まる思いであります。もとより浅学非才でその器ではございませんが誠心誠意努め、中立で公平な議会運営に精進する決意であります。

真田町の諸情勢を認識し先輩議員の築かれた伝統を守り、議会の機能を十分に発揮し、町民の皆様方の負託に応えてまいりたいと考えております。東京真田町の会の皆様方のご指導とご協力を賜りますよう心よりお願いを申し上げます。

さて、いよいよ二十世紀も残すところあとわずかとなりました。二十一世紀は自然保護とITの時代と云われております。

急激な情報化の進展が考えられ、少子高齢化の進行も著しく、経済構造の変化と国民の価値観と生活様式が多様化しつつあり、構造的な変化に直面しておるように思われ、新たな社会経済の構築が喫緊の課題であると思います。

このような中で、地域住民に最も身近な行政本体である地方自治体は、豊かで活力ある地域社会づくりに向けて、農山村の活性化、下水道等の生活基盤の整備や、災害に強い安全なまちづくり、介護保険制度の円滑な運営、又総合的な社会福祉施策など、積極的に展開をして行かなければならない施策が真田町に限らず全国的に求められております。

このためには地域に密着した行政を真田町は自主的な判断を責任において決定し、実施し得る真の地方分権型行政システムの構築が大切であります。

国は市町村への事務、権限及び税財源の移譲を推進し、地方分権の歩みをさらに確固たるものにしなくてはならないと考えます。

真田町も高速道と新幹線に寄り東京圏が近くなり、大変便利になった事が実感されるようになりました。

上田市とも、交流を深めております。道路の改良促進等には大変御協力を頂いております。

真田町は町長はじめ環境整備

には大変力を入れており、上田市の上流に住む真田町民は、きれいな水を上田市に供給する義務があるとして、その意識の高揚を図っております。

上田市には日量石舟から九千トン、川久保橋の下から二万一千トン、合せて三万トンの水を上田市上水道に供給しております。真田町は治山治水、環境を守りながら良い水を送ってあげたいと考えております。

東京真田町の会の皆様、自然に恵まれた真田町も生活基盤がきちんと整備されつつあります。皆様方のお子様やお孫さん方がおじいちゃんおばあちゃんに住んでいる真田町に住みたい、あるいはお嫁に行きたいなと思えるようなふるさとなつて来つつあります。

そんなことが実現出来ることを願ひ東京真田町の会の皆様方のますますのご発展とご健勝を心より御祈念申しあげあいさつと致します。



二〇〇〇年の区活動から



真田町区長会長

松井 文雄

りを進めています。

明日のまちづくり懇談会では、町は第四次長期新興計画に「住んでいて良かった」「訪れた人が住んでみたい」と思える町の実現のために「森と緑やすらぎ空間を求めて」として町全体が自然公園のような姿にと、各区で研究、協議を行っております。また、本年は区長会の要望によりまして区の活性化を図ることから、町より三十六区に二百八十八万円の予算で集会用テナント等の配置をして頂きました。区長会長として、町のいろいろな会議に出席しました。

たといえば、社会福祉協議会理事、環境保全審議会委員など、十三件の理事、委員、評議委員を務め大変勉強させて頂きました。

区の一旦の活動を申しあげまして、最後になりましたが、東京真田町の会のご発展と、会員皆様のご健勝とご活躍を心からお祈り申しあげます。

花づくり部会では、「花いっぱい運動」をはじめから六年になります。区民みんなが花に会える」というテーマで、美しい花づく

ふるさと訪問記

清水 清晴

(中横道出身)



今年のおふるさと訪問は、六月四日(日)の「真田町菅平カントリフェスティバル」に合わせてお行われた。私も馬鹿の一つ覚えで又参加、皆勤、暇だなあ・・・。

六月三日、新宿西口安田生命ビル前を午前七時三十分出発、バスは足立自動車の、横須賀さんの運転、定刻に出発しようとした処へ、はからずも、中野の川上さんが、なんとバスの前を横切って歩道に昇らんとした処を、車内で皆で発見、会長がバスから降りて呼び止めて乗車していただいた、出発、十七名。バスは、中央高速で、甲府・諏訪・松本を通り豊科で、高速を降りて、穂高町の、わさび農場を見学、清き水の流にしか生育しないと言われる、わさびは、黒い幕に覆われて、直射日光を避けて栽培されている。広い場所を見て納得、参加者全員で売店で買い求めた、わさびの入った、アイスクリームを頂く味のよさ舌筆不可。

わさび農場より少し走った処の安曇野食堂で幹事さんの萩原さんのお世話で昼食、ビールのおつまみにおいしい料理と、そして山菜うどんと、山菜そばでお腹は狸の腹づつみ以上に・・・。

今度は白馬村の、ジャンプ競技場見学にと車は走る、天気はよいし、絶好の旅行日和。

白馬ジャンプ競技場のプロフイルによると「昭和六十一年に基本設計を行い六年かけて平成四年十一月に完成し、その後オールシーズン化の要望が高まり、平成五年十一月オールシーズン化が完成し一九九八年、第十八回長野冬季オリンピックで日本中は勿論世界的にも脚光を浴び広く知られた競技場」とのことです。

二人乗りのリフトで八十メートル地点で降りて、エレベーターで四階へ、高さは着地点より百三十八メートル余りとか？

そこから今度は網で覆われた渡り廊下を、下を見ると目が回る、足がガタガタ震える、しっかりと外壁の鉄棒につかまり最上段に到

着、絶景かな、絶景かな。降りしきる雪の中での金メダルジャンプの情景が目あたりに思い浮ぶ。

約一時間ほどの見学して長野善光寺さんに向かう、雲ゆきは余りよくない、善光寺さんに着いた時は雨は上がっていた、はやばやと参拝をすませて車上の人となる、長野を出発して間もなく、バケツをひっくり返したような大雨。

菅平に着く頃は雨も上がって、気持ちよい、午後五時半頃ホテルにつき、一風呂浴びて旅の疲れを癒す。

六時半より懇親会、箱山町長は、本日は上田市真田町の会



総会がありそちらへ出席とか。町からは、柄沢助役、芳沢課長、柳沢さん三名のご出席を頂き、楽しいひとときを過ごし、いつもの時より早めに全員床につく。

翌日は午前八時半にホテルを出て、サングリーン菅平マレットゴルフ場にて、腕を競う。

大久保さんを別にして男はダメ、優勝、川上さん、準優勝、堀内さんの奥さん、三位、三井会長の奥さん、マレットゴルフが終わり。

今度は川上さんの親戚宅の裏山で山菜採り、昔なつかしい山歩き、あるわ、あるわ、タラの芽、ふき、山うど、わらびと沢山の収穫。又釣り堀では、餌を付けずに、三井さんの奥さん、強引に一匹つり上げて大喚声。

十一時頃、カントリーフェスティバル会場へ、約三千人くらいの参加者で広場は満員、焼肉や天ぷらなどをご馳走になる。堀内さんや佐藤さんは、ヘリで菅平上空の旅を楽しんだ。午後一時すぎ、菅平を後に一路帰宅の途につく。

皆さんお世話様でした。幹事の萩原さんご苦労さんでした。次回も又バスでね。



初夏のふるさと真田町

堀内 幸子

六月四日晴天に恵まれた菅平高原の空は青く若緑の木々の葉がさわやかな風に輝いていた。目の疲れが癒されるほどの緑の草原でのイベント広場では、大きな鉄板で牛の丸焼き、山菜の天ぷらをはじめいろいろな即売があり、食べることが大好きな私にはうれしい限り。

それでもう一つ気になったのが上空を飛ぶヘリコプター。いやがる主人をひっぱって乗り場まで行き20分待ち時間、

「ミレニアム年の偶然」

塚田 恒雄

(横尾出身)

ゴルフアールであれば誰もが夢見るのがホールインワン。しかし、なかなかこれが達成できない。英国のゴルフ歴史家プリムリッジの統計によると、アマチュアでは一〇、七〇〇ラウンドに一回の確率となる由。週に一ラウンドのゴルフアールだと、約二〇〇年に一回しか出ないことになる。

このホールインワンを、私が先日突然として達成してしまった。それも、母校の上田高校創立一〇〇周年を記念するゴルフ大会、参加一八一名という大舞台での出来事だから驚きである。

一〇月六日。中軽井沢CC。午後のアウト2番。表示一五〇ヤード、ただしピンは手前、フオローのため一一三ヤード見当とのキャディさんの託宣。

素直に9アイアンを使用。上下動に気をつけ、ゆっくりスイング。珍しく高い弾道でグリーン右手前エッジに落ち、フックラインを描いてピンに向け転がっていく。瞬間、コッソンという音。ピンに当たって球が消えた。

前の組の姿はなく歓声はない。一瞬、ティーグラウンド辺のすべての動きが止まり、寂として声なし。続いて「ホールイン

ワンだ」の声。パートナーとキャディさんの「オメデトウ」の祝福と握手攻め。当日、午前中の二名に続き私が三人目という快挙であった。

私のゴルフ歴は約三十五年となる。ただし、時々中断していたので正味は二〇年である。至近では、椎間板ヘルニアで十二年程休み、四年前に友人や先輩たちに励まされて恐る恐る復活した。右脚が十分に踏ん張れないため飛距離は出ないし、スコアもかつての域には戻っていない。

一方で、終身スクラッチを誓い合ったゴルフの友たちも、何らかの身体的ハンディが出る年代に入ってきている。つい先頃も交通事故で入院中の友を播州赤穂に見舞った。早期回復を心から願っているが、終身スクラッチは当然そのままだ。くやしかったらホールインワンを出してみたらと言いついてきた。

こうした舌口勝負もゴルフならではの楽しみ。この機にあらためてゴルフを通じて私を導いてくださった皆さまに報告し、感謝いたします。



故郷を離れて五十年

田中 弥作



私は、菅平を出て今年で五十二年になりました。

菅平出身の杉崎さんに菅平でお会いする機会に恵まれ、「東京真田町の会」がある事を知り、それから一年に一度の会を楽しみに出席するようになり、多数の方にお会いする事になりました。

いつも菅平ですごした日々の事が話題になり、故郷がとてなつかしくなります。大好きな菅平の事は、心からはなれる事はなく、いつの日か錦を飾って、菅平へ帰ろうと思う日々でした。だけどあつと言う間の年月がすぎ、力およばず平凡な日々が過ぎてしまいました。

その間に菅平は、大変な発展をとげ、一大観光地になってしまいました。

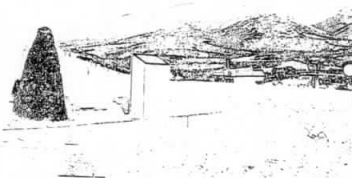
しかし真田町の会に出席させていただき皆様にお会いすると、少しも変らぬ故郷のぬくもりにふれあい、月日はすぎても人情は、変らないものだと感じています。

そう思っ菅平にたつと、菅

(菅平出身・旧姓渡沢)

平の山々、根子岳、あずまや、つばくる岳は、十六才で故郷を出た時と、なんら変らぬ姿をしている事に気がきました。

やはり故郷は、何年たつても変る事のない、心の故郷なのだとかんずる今日この頃です。真田町の会を楽しみにしております。



テレホンカードのお礼

しらかば通信4号で、使用済みテレホンカードの提供をお願いしたところ、南雲圭子さんから四〇〇枚、他の皆さんからも沢山のカードを、総会の時にお持ち頂きました。心から厚くお礼申し上げます。

コスタリカの森林を護るために使わせていただきます。

「につぼんこどもの

じゃんぐる」

東京連絡員 柴田小夜子



主人は口もきかず不安そうにしています。私は操縦席の隣りに乗せていただき離陸、信州の美しい山脈と眼下には菅平のきれいに耕作されている田畑や沢山のラクビーグラウンドをながめ、なんだか鳥になった気分です。楽しかったのですが、主人は降りる時の早いことホッとしたようです。

とにかく初めてふるさと訪問に参加させていただき一泊二日とはいえ、わざわざ園、ジャンプ台見学と善光寺参り、マレットゴルフ、山菜採り、フェスティバル参加と欲張り旅行に大満足。

ご一緒の皆様にはたいへんお世話になり、親しくお話しをさせていただきましたことを御礼申し上げます。

これからも会員の皆様お一人でも多くの方がこのような楽しい行事にご参加なされますようにと思ひます。

(堀内寿美氏婦人)

生死の狭間を乗り越えて

内海 卯市 (大庭出身)



昭和十八年十月六日午後九時十五分、第二次ベラベラ海戦で駆逐艦「夕雲」は敵駆逐艦と交戦中、敵の放った魚雷を受けた。突然物凄い轟音と共に艦は上下左右に激しく揺れ動いた。私は第一罐室電話室で連絡係であった。

間もなく第二罐指揮所より「二号罐至急消火」と連絡あり、直ちに消火その旨報告すると「罐室員総員上甲板二上ガレ」の号令があり上甲板に駆け上ると艦の前方が沈みかけている。仲間が材木等を海中に投げ込んでいた。

私は、上甲板中部でばったり倒れ意識を失ってしまった。気付いた時艦は左舷に三十度以上も傾いた為、自分の体がずるずると海中に滑り落ちた。泳いでいると左足が動かない。右足と両手で早く艦を離れないと艦と運命を共にすることになる。無我夢中で泳いでいると大きな防舷物に石橋兵曹がいた。私もそれに掴まり振り返り向くと「夕雲」

の姿はなかった。

首に下げていた手拭で手を借りて左足大腿の傷の上部に止血をした。暗黒の中お互に呼び合い乍ら戦友が造ってくれたイカダにたどり着く。負傷者は皆の助力で上に乗せてもらう。他に五人程負傷者がいた無傷の戦友は皆イカダに掴まり立ち泳ぎをしている。数十四・五人位、私も負傷していることを気にかげず精神力で生き抜かなくてはと自分に言い聞かせた。

誰かが大声で「眠ってはならない眠ったら死ぬ」と何度となく呼びかける。夜が更けるにつれて海水は冷たくなり睡魔と疲労との戦いは言語に絶するものであった。私の傷も海水に浸かつていたのが幸にして出血はあまりないようだ。

翌七日、ソロモンの海は波ひとつ立たず何も無かったように静かであった。

改めて見る戦友の顔は重油をあびて頭から真黒、目は結膜炎で太陽がよく見えない。

朝から敵機来襲掃射銃撃を繰り返して爆烈をきわめた。その都度、大きく息を吸い込んでイカダから海中に潜り息が切れる

と浮かび上がり、その繰り返しであった。そのうち敵機が発煙筒を落として飛び去ると黄色の煙が立ち昇るとそれを目標に、大きな飛行艇が着水し味方の兵隊を救助して姿を消した。

太陽が昇り炎熱が襲ってきた。熱い熱い、漂流してから十五・六時間は過ぎている。皆の生命はまさに風前の灯し火であった。その時側に折り畳みボートが浮いていた。

イカダよりボートが安全なので総員移乗する。夕暮が近くなってきた。遥か彼方の水平線から敵魚雷艇がやって来るのが見えた。先刻の敵機が知らせたのか三隻のうち一隻が我々の周囲をぐるぐる回り続けボートに近づく。距離四メートル、敵兵はみな銃を構えボートの前後部に威嚇機銃掃射しながら「降伏しろ」と言うのであろう。

北条大尉は立ち上がって「日本軍隊には降参はないその銃でこの胸を撃て」と拳で胸を叩きながら敵兵の投げってきた縄梯子を投げ返した。

敵兵はこれを見て間もなく長いパン一本と水筒を持ってきた。ボートに投げ込んだが水筒は途中海に落ちた。一切のパンを口に入れ「敵さんよ有難う」と心の中で繰り返した。我々は武器もなく負傷者も多いのを見

て、いずれは死亡する運命と思つたのか走り去った。

魚雷艇が来た時、蓮池兵曹は「助かる望みがない」とボートから手を離して海中に没した。つづいて二人の仲間も海中に沈んでいったのが今も忘れることができない。

遥か水平線にボートが漂流しているのを発見、距離千五百メートルぐらい。漂流して二十時間後である。飲まず食わず一睡もせず疲労はその極に達している。時たま来るスコールに両手を口に当て広げて雨水を吸いながら喉を潤す。照りつける太陽はますます暑さを加える。鈴木兵曹外一名が泳ぎ出し一隻を捕獲した。夜戦で沈めた敵巡洋艦の内火艇であった。

一刻も早く敵制海下の海域から脱出しないと、ボートを皆でオール代わりに両手で懸命に波を掻き全員乗り移った。皆が協力してエンジンを開始させ、及川艦長が指揮を執りまだ仲間がいるかもしれないと捜すと四名救助することができた。生還の目標基地はブーゲンビル島のブインだ。我が海軍最前線基地である。

長い夜が明け八日の朝になった。生死をかけ苦しみを勝ち抜いた仲間。海戦に奮戦むなしく撃沈された艦船は、多くの兵士

とともにソロモンの海底深く没した。

艇は重傷者を助けるため、一刻も早く到着しようブインに向け走っている。夕暮れが近づいて、島のブイン入口に着く。

オーイオーイと呼び「夕雲」の兵隊だと告げると、武装した兵が、カヌーできて「ご苦労さん「夕雲」は全員玉砕と聞いたがよく帰られた水も飲んでくれ、煙草もバナナも煮魚も食べしてくれ」と言う、兵隊の目に涙、我々も万感の涙涙であった。

一口飲んだ水のうまさ、煙草もバナナもうまかった。

隊員の水先案内で根拠地の桟橋に着くと私は二人の戦友の肩につかまり医務室に行き、六日夜負傷して初めての手当を受けた。歩行のできない私の傷口を見て軍医は「よく生きて帰れた」と片手が入るような大きな傷口を感じていた。

左足を添木で固定し包帯をして治療が終了「もう大丈夫だから安心して休むように」と云われて、生きて帰れた実感が湧く、嬉し涙が止めどもなく流れた。

生と死の狭間を乗り越えまさに九死に一生を得て生還を遂げた。

七ページ下段へ

星野富弘花の詩画展

婦人会長

斉藤慶子



ハガキや本等が、何の声もけもなくとも良く売れました。

展示会場から出て来た人のほとんどが買い求めていくというのはどういふことなのか。

「子供たちの遊ぶ声にひかれ行つてみればだれもいない。夕陽の道に草の実がこぼれていた」この詩と赤まんまが四方に咲きひろがった赤茶色の画。

この一枚の詩画をポスターに使つて、星野富弘花の詩画展が九月三十日から十月十五日まで文化会館で開催されました。

この時、季真田の里は道端にも田んぼの畔、畑の中にもビシクのちっちゃなつぶを行儀よく無数に並べて赤まんまが咲き乱れていました。

町にとつては今までにないという大きなイベントで、町の事務局と実行委員会が一緒になつてとりくみ、多勢のボランティアがこれを支えました。私達婦人会も大きな輪の一端を受け持ち協力しました。

詩画展がスタートしてお互いに緊張していましたが、少し慣れてきた頃から来場者がどんどん多くなり、婦人会がかかわったグッズ販売のコーナーでは絵

自然と共存の真田町

教育委員

宮下蘭子



庭の木々もすっかり葉を落とし、漬物や取り入等冬仕度に忙しいこの頃でございます。

東京真田町の会の皆様、過日は大変お世話になりました。同じ地で育った皆様とお会いできましたこと、お懐かしく感無量の気持ちで会話もはずみ、お酒を酌み交わしながら大変有意義なひと時を過ごさせていただきました。

さて、この度、原稿の依頼をいただき、このテーマが決まらず、炬燵にあたり考えておりましたら、(窓越しに見える動くもの)「なんとキジの親子ではありませんか。」「七羽もいます。」警戒心もなく悠々と草の実を啄んでいます。

この区域は十一月十五日から狩猟解禁になっており、鳥や動物たちにはありがたないことです。「早くいっぱい食べて山奥へ行つた方がいいよ!」「狩りゆうどが来るからね。」思わず言葉に出てしまいました。

九死に一生……

この文章は内海卯市さんが、「私の軍歴」と題しまとめたものの中より、スペースに合わせて、再編集していただいたものです。

原文中には想像を絶する描写も入っていて、読むほどに涙無くしては先に進めませんでした。

戦争の悲惨さが書かれていて戦争は二度と起こしてはならないことがひしひしと感じられ、今も、世界の各地で紛争が続いているが、一日も早い終決を願う気持ちがふつと湧いてくる文章に感動しました。

内海卯市氏略歴

大正四年、内海彦一郎氏の七人兄弟の五男に生まれました。

昭和十一年、二十一才で海軍に入隊、横須賀勤務、駆逐艦「夕雲」(二〇〇トン、乗員二百五十人)に乗艦。キスカ、ニユーギニア、ガダルカナル、ソロモンに従軍する。

昭和十八年、第二次ペラペラ海戦で負傷。ラバウル第八海軍病院、野火海軍病院、諏訪日赤病院で治療。

退院後、横須賀海兵団に入団、海軍軍需部箱崎分遣隊で終戦を迎える。九月一日に足掛け十年の軍隊勤務より復員。

上等士官兵曹

現在八十五才、川口市在住

真田町の福祉の現況

真田町社会福祉協議会

会長 松尾 吉隆



いまだどこでも「教育」や「環境」、「福祉」といったことが社会的問題となっていますが、長寿社会を迎えてとりわけ高齢者福祉が地域の中心的な課題となっています。

これまで真田町では、他の市町村に先がけて特別養護老人ホームなどの施設整備や、訪問介護、通所介護など在宅での介護を支える諸制度も充実されてきました。

四月からは全国一律の介護保険もはじまりましたが、介護保険だけでは高齢者の老後の生活を支えるには不十分な部分もかなりあり、身近な地域での日常の支え合い、助け合いが必要です。

民生委員さんを中心に各集落で福祉推進委員やボランティアの皆さんで、独り暮らしの方や、高齢者世帯、障害者の居る世帯の支援活動に取り組んでいます。

また年をとっても、できることなら介護保険などの厄介にならず、まわりに迷惑をかけないで生涯を過ごしたいとお互い

に願うところですが、介護予防もこれからの大切な仕事です。

今年から集落単位に高齢者の交流の場づくりをはじめていきます。集いの中でお互いの情報を交換したり、趣味を生かしたり、健康を保てたり、困った時にはお互いに助け合えるような場づくりです。

住みなれた地域で、生涯いきいきと安心して生活できる地域づくりが町の目標です。

激しく変化していく時代の中で、農村地域も大きく影響を受けざるを得ないことは、止むを得ないことかも知れませんが、引き継ぐ者が居ないまま、荒れた田畑や手入れのできない山林が年ごとに増えていくとともに、これまでの技術や、地域の伝統、文化までもだんだん維持することが困難な状況になっていくことは、大変気がかりなことです。

来るべき新しい世紀には、以前のように豊作をみんな喜びあえたり、子供たちも、もう少し伸び伸びと安心して育てられる社会、汗を流して作った作物がもう少しともな評価を得られるような時代になることを期待しているのですが。

総云に参加させていただいて

真田郷保存会副会長

長崎 伊登子



東京真田町の会の皆様、第十三回定期総会開催、おめでとうございます。私達保存会も、坂口浩さんと共に、お邪魔をさせていただきました。当日は、比較的光栄に存じました。当日は、比較的光栄に存じました。当日は、比較的光栄に存じました。

皆様の故郷信州は、もう収穫も終えた田園の風景が、例年より遅い山々の紅葉に、冬の訪れを待っております。

御会の十一年度の会務報告、又十二年度の活動状況の中にもございましたが、会員の皆様が、積極的に、行事に参加されておられるご様子に、信州にも又、マレットゴルフや、スキー等にもお越しいただければと思います。又、定期通りに始められました整然とされた総会の進行に、皆様方の日頃の郷土愛の深さを、感じさせていただきました。

私達も今日は故郷の香りを皆様にお届けする事が出来まし

たらと、日夜、研鑽をして参りましたが、ご満足いただけましたでしょうかと心配でございます。

箱山町長さんを始め町を代表されての皆様との同席で、緊張の場面ばかりでしたが、私達のアトラクションの中に少しでも皆様の郷愁を感じていただけましたら幸いと存じます。

私事ですが、私も出生の地は渋谷でございます。戦後六才で長野県に疎開しましたので、私にとりましても故郷は真田町でございます。

母が見知らぬ土地で、お蚕を拾ったり、持った事も無い鍬や草かきでお手伝いをして、私達を育ててくれました。父もしかりです。

母の首すじにお蚕を入れたいたずらも、もう遠い思い出となりました。凍てつく冬はきびしいですが、私の故郷、私も真田町が大好きです。

向寒の折り、皆様方の御健勝と、御繁栄をお祈りしつつ、又次回お逢い出来ます事を胸に、御札の稚文とさせていただきます。ありがとうございました。

「真田町に優秀賞」

第10回（平成12年度）全国花

のまちづくりコンクールの市町村部門で、真田町は全国82市町村の応募の中から、優秀賞にあたる建設省都市局長賞に選ば

れ、表彰式が11月24日に行われ、

箱山町長に建設省都市局長から賞状と顕彰プレートが授与されました。平成8年度にも町は優良賞を受賞しました。町のどこを歩いてもたくさんさんの花にふれあうことができるように、熱心に取組んだことが評価され、また、森と緑やすらぎ空間構想に基づき、自然豊かな町をめざしたまちづくりの一環として、草刈り、河川清掃など環境整備に町ぐるみで取組んだ点も大きなポイントとなりました。

（生活環境係 堀内 正文）



第十三回総会

のあらまし

事務局長 山口 元彦

(横浜出身)

今年の総会は、十月二十二日(日)に開かれました。秋晴れに恵まれ、総勢百十五名が出席しました。内訳は、会員九十七名、町から十七名、他団体一名でした。

総会の部は「信濃の国」の斉唱で始まり、三井会長及び箱山町長のご挨拶の後、会務・会計・監査報告の承認及び事業計画・予算の審議、決定が行われました。

会長は、西暦三千年という節目の年に盛大な総会ができて喜ばしいこと、他方で会員の高齢化が進んでいるので健康に留意され今後も永く出席していただきたいこと、会の継続発展のために新会員を増やすようご協力を願いたいこと等を述べました。

町長は、会員の皆様がいつも町に心を配って下さっていることに感謝の意を表され、また、真田中学校改築工事の完了、子育て支援センターや高齢者集合住宅の竣工、有線放送網を利用したインターネットの実現等、女性や高齢者を大切にすると同時に世界との交流を広げる町づくりの状況を報告されました。そして、会員の皆様が町に来てくれることを双手を挙げてお待ちしているのです、ご支援をお願いしたいとご挨拶されました。



アトラクションは、真田郷保存会の皆様と歌手の坂口浩さんが、真田郷正面踊りをはじめ数々の踊りと歌を披露して下さいました。特筆すべきことは、箱山町長が飯山警察署長時代に作詞された「奥しなの」という歌が披露されたことです。踊りもついた本格的な演歌で、一同感嘆しておりました。

懇親会に移り、小林顧問が歓迎の挨拶の中で、「信濃の国」を歌うたびにふるさとを思い出す、信州に生まれ育って本当に良かったとしみじみ述べられ、合衆議長は来賓祝辞で、東京と長野が距離的に近くなったので、中央にいる方々の率直な声を聞かせていただきたいとの希望を述べられました。

また、羽田孜長野県人会連合会会長からも、町長を始め町の方々が駆けつけての総会は素晴らしい、町は温泉、野菜、ラグビー等々の名物があり、ますます発展すると思います。と、祝辞を戴きました。

半田幸弘会員の音頭で乾杯し、同じ村の者同士で食事をしながら昔話に花を咲かせました。懇談会の部でも歌と踊りが披露され、中島副会長の飛び入りの踊りも加わって、にぎやかに過ぎました。また、恒例となった輪踊りでいっそうの親睦を深め、最後に柳沢喜三郎会員と柄沢助役の音頭で万歳の交換をし、町からのお土産のリングを戴いて、名残を惜しみながらの解散となりました。



「星屑の人」

武捨衛人 (中組出身)



融合や超新星爆発によって作られた元素に由来しています。従ってあなたも私もキザでも何でもなく「星屑の人」と言えるのです。

昭和17年4月、傍陽国民学校に入学以来58年、そして昭和30年に笈を負って上京してから45年の2000年5月に退職し、毎日が日曜日の日々です。

幸い心身共に健康に恵まれ早朝の目覚めを、学生時代に真新しいノートを手にした時の様に新鮮な気持ちで迎えています。何もしたくも無い：何をしても良い：散歩・パソコンいじり・図書館通い・カラオケ・ゴルフの打ちっ放し・テレビの録画や放送大学の受講・ビデオ・カセットテープの整理やインデックス作成に追われ、退職時に目論んでいた園芸や料理の手習いはいつのことやら…。

本題に入って「星屑の人」は大袈裟な表題ですが、私達人類や地球上の全ての物はかつて宇宙を漂っていた星間物質で構成されているのです。

地球は46億年の歴史において核融合したことがないので、その構成物の水素以外の元素はかつて宇宙に輝いていた星の核

宇宙が開闢して150億年、地球が誕生して46億年、人類の発生から400万年、人類が人らしくなつてから1万年？日本人が現代文化の恩恵を享受出来るようになって100年？50年？20年？…ともかく私達は想像を絶する宇宙の歴史の一瞬を生きて「喜怒哀楽」の日々を過ごしているのです。

一方1秒間に地球を7周半する光が届くのに150億年かかる広大な宇宙の中で無に等しい大きさの地球で私達が同時代に生を受け互いに知己になるのはまさに奇縁です。日々の生活には腹立たしい事や悲しい事もありますが、広大な宇宙の時空の一瞬の出来事と考え、穏やかに対処したいものです。

この度東京真田町の理事にご推挙を戴きました。無能力も顧みず微力を尽くしたいと存じますので宜しくお願い申し上げます。

渋谷ログスキー創業50周年

記念パーティに出席して

大久保治夫 (大日向出身)

以前、当会の理事を務められた長屋京子さんが副社長をされている日本最初のロシア料理専門店「渋谷ログスキー」が創業50周年を迎え、記念パーティを10月24日ロシア連邦大使館にて催すとのこと案内をいただいた。

当日受け付けを済ませて二階の会場へ既に多勢の人がいて、三井会長夫妻・荒木副会長他数名の東京真田町の会のメンバーもいた。

正面の壁には彫刻がほどきれ、重厚な色彩の銅板画が一面に飾られていた。

定刻12時30分、長屋隆社長よりログスキーの歴史を話され、社員の紹介の挨拶に家族的なものを感した。続いてロシア連邦公使トプロボリスキー氏の挨拶、羽田孜元首相・その他数名の祝辞があったが、長屋さんには申し訳れないが内容についてはほとんど覚えていない。

それは次に用意されていた「大使館学校生徒によるロシアの歌と踊り」を見たときに忘れてしまったのである。

民族衣装を着た、とても可愛い子供達の登場で会場内はドヨ

メキに変わった。生徒達が整列するとカメラのフラッシュが一斉に光った。私はカメラを持参しておらずじんだを踏んでいた。

私達の知っている曲も含め、上級生組・下級生組・合同でと、とても素晴らしい歌と踊りであった。会場が割れんばかりの拍手が続いた。

日本TVの朝番組で「やさしい英会話」に出ていたアントン・ウィツキー氏の発声で乾杯、会食・懇談会に入った。

ロシア大使館のコックさんが腕を振った沢山のロシア料理が美しく並んでいて写真を撮る人もいた。初めは、私を含め皆さんお腹がすいていたのか食べることに専念であったが、落着くと、先程の生徒達の話を交えて楽しく歓談をした。ロシア大使館の職員の皆さんから接待を受け大変なごやかなパーティであった。

家に帰り、カメラの事を妻に話したところ、何



時も持つて出掛けるのに、肝心の時に忘れるなんて「自称カメラマンは返上ネ!」と云われてしまった。ここに載せた写真は長屋さんよりお借りしたものです。

300名程の大勢の皆さんが集まり盛大に50周年を祝う会でした。

ちなみに「店名のログスキー」の由来はロシアで昔使われていた人名(日本で云えば太郎兵衛・次郎兵衛に相当する?)とのことだそうです。

近況報告

友部きよ志(下横道出身・旧姓内川) ダボス楽しみに拝見しております。都合により欠席させていただきます。

正木とみ子(菅平出身)

いつもご無沙汰です。すみません、来年こそは皆様にお会いしたいと思います。

山宮敏男(入軽井沢出身)

田舎を出てから40年になりました。今年、60才になりました。10月21・22は家族旅行を計画をしましたので欠席します。

山本香織(本原出身・旧姓合業) いつもお世話になっております。6月に出産し、今は子育てに専念しております。申し訳ございませんが今回は欠席させていただきます。

野村勝太郎・富子(大日向出身) 大変残念ですが二人共、当日は練馬区長野県人会の信州旅行と重なってしまい欠席します。伊那・天龍に旅します。会運営に苦勞さまで。

矢澤秀子(上原出身・旧姓清水) 元気でくらししております。幹事の皆様には何時もお世話さまで、ご苦勞さまで。

小林公江(大日向出身・旧姓塩沢) お世話になっております。今年、都合により欠席します。どうぞ皆様によりしくお伝

えください。盛会でありますようお祈りしております。

所けさい(中横道出身・旧姓堀内) 入会早々欠席で申し訳ありません。故郷を離れて当地に住むこと四十年、すっかり落着いてしまいました。来年を楽しみにしております。

久保定春(横沢出身) 相変わらず元気でやっております。皆々様にお会いできる事を楽しみにしております。

岩崎みち子(菅平出身・旧姓正木) 残暑があまりにもきびしい夏でした。10月はすばらしい天気に恵まれますよう願っております。お世話になります。

萩原節子(大庭出身・旧姓花園) 今年は五人目の孫が誕生し毎日が忙しい日々を送っております。

橋詰照雄(中組出身) 10月17日信州へ日帰りバス旅行。10月18・19日は小蚕校の同級会を上山田で行い、その足で田舎へ寄ります。足腰が弱ったが元気で。

坂口子平(下原出身) 最近、膝疾患が悪化して家に籠もり切ります。併し、漢字渡来以前の日本固有の文字(古代文字・神代文字)やペトログラフィの勉強が出来るので退屈することはありません。

清水民子(曲尾出身・旧姓上原) 今年、は色々することがあり出席出来ませんが来年は必ず

出席いたします。

太田秀則(大畑出身)

定年が二年後、以降は暇になり各種の催物に参加したいと思っております。

宮下毅士(真田出身)

娘二人は結婚、孫一人。現在は母と妻と三人暮らし。ご盛会を祈念いたします。

井上かつよ(田中出身・旧姓堀内) 皆々様にお会いできるのを楽しみに出席させて頂きますので宜しくお願いいたします。

椎名巳津男(横沢出身・旧姓山口) 私体調を損ない総会に出席ができず大変残念に思っております。会の益々の発展をお祈り申し上げます。

橋詰 彰(横尾出身)

出席したいですが足の具合が云う事をきいてくれないで残念ですが欠席します。ご盛会を祈ります。

森本幹生(入軽井沢出身)

ガンバッテ仕事しております。盛会でありますように。

横山たか子(大畑出身・旧姓横沢)

いつも会報を届けていただきありがとうございます。倉島徳磨(中組出身) 町会の球技大会があり役員をしてまして残念ながら欠席します。

内海宏光(大庭出身)

勤務先が江東区青海の東京港湾合同庁舎に移りました。毎日「ゆりかもめ」を利用しております。目の前は海、夜景は「絶

景かな」です。

大庭今朝女(大日向出身・旧姓太久保)

いつも連絡をありがとうございます。今回も又残念ですが欠席させていただきます。健康に恵まれ変わりにくす

ごしております。

川口知恵子(竹室出身・旧姓高寺) 市の文化祭でシルバークーラスの発表会と重なり残念ですが欠席します。

若林 豊(赤井出身) 元気でおりますが都合により欠席させていただきます。

中田すみ子(菅平出身・旧姓若林) 御連絡ありがとうございます。都合により出席できません。皆々様によりしくお伝え下さい。

滝沢富志子(下横道出身・旧姓半田) ごぶさたしております。元気でおります。ご協力出来ないのですみません。

桜井和子(下横道出身・旧姓中沢) 元気で何かと忙しくしております。用があり出席できません。22日は盛会でありま

すように。

岡村真江(中組出身・旧姓齊藤)

残念ですが都合で出席できません。皆様によりしくお伝え下さい。

牧内 操(萩出身)

川口長野県人会会長を努めています。毎年秋ふるさと訪問バス旅行をしています。とても楽しく皆々さん大喜びです。

山本 勝(大日向出身・旧姓塩沢) 益々のご発展を心から祈念いたします。

山口末子(穴沢出身・旧姓西牧) 旅行のため欠席させていただきます。

倉島安三(角間出身)

町内行事のため不参加とさせていただきます。

宮本 優(大日向出身) 役員の皆様お世話になっております。今回取引先との予定が入っており出席できません。あ

しからず。

内海辰三(大庭出身) 元気で暮らしております。当日は他の行事と重なり欠席いたします。ご盛会を祈ります。

堀内 操(竹室出身・旧姓高寺) やつと秋らしくなりホッとしています。役員の皆様方に感謝しつつ今年も出席させていただきます。

野間亮子(横尾出身・旧姓北沢) なかなか参加できず申し訳ございません。もう少し時間がかかると思いますが、皆様によりしくお伝えください。

山本美江(下横道出身・旧姓堀内) いつもお世話になりありがとうございます。先約があり欠席します。よろしく願います。

渋谷芳三(横尾出身)

元気であります。歩行困難は相変わらず、皆々さんによりしく。(通信欄より、敬称略、順不同)

平成11年度 決算報告書

H11年4月1日～H12年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部			支 出 の 部		
科 目	予 算	決 算	科 目	予 算	決 算
通常年会費	650,000	415,000	総 会 費	1,500,000	1,114,411
総会懇親会費	2,000,000	983,000	会報発行費	700,000	564,900
真田町補助金	500,000	500,000	事 業 費	900,000	350,546
広 告 収 入	800,000	500,000	事務通信費	500,000	329,475
寄付金等収入	100,000	127,000	印 刷 費	400,000	89,333
利息等雑収入	98,283	2,555	会 議 費	400,000	279,413
			渉 外 費	300,000	53,500
			交 通 費	100,000	25,530
			雑費・手数料	100,000	27,840
			予 備	100,000	
当期収入合計	4,148,283	2,527,555	当期支出合計		2,834,948
前年繰越額	851,717	851,717	次期繰越額		544,324
合 計	5,000,000	3,379,272	合 計	5,000,000	3,379,272

上記の通り収支決算報告いたします。

平成12年3月31日

会 計 堀内 寿美 ㊞

上記の決算報告書は適正かつ真実であるものととめます。

監 事 関谷 義久 ㊞

監 事 飯嶋 義道 ㊞

平成12年度事業計画

平成12年度 収支予算

平成12年4月1日～平成13年3月31日

- ① 第13回総会及び懇親会の開催（平成12年10月22日）
- ② 会報「日本ダボス」第13号の発行
- ③ 広報紙「しらかば通信」の発行
- ④ 観劇会、ゴルフ会、マレットゴルフ会等会員相互の親睦をはかる行事の実施
- ⑤ ふるさと訪問の実施
- ⑥ ふるさと特産品の宅配協力
- ⑦ 真田町との交流促進のため、各種文化行事の実施と参加
- ⑧ その他

「東京真田町の会」役員名簿

職 名	氏 名
会 長	三井 芳郎
副 会 長	荒木 孝一 塩沢 和政 中島 正江
監 事	関谷 義久 飯嶋 義道
理 事	事務局 山口 元彦
	会計 堀内 寿美
事	飯島 慶三郎 大久保治夫 荻原 啓治
	小林 正子 鈴木 邦子 柴田小夜子
	滝沢 勲 塚田 恒雄 深町 共栄
	堀内 福 武捨 衛人
顧 問	小林 孝雄 清水 清晴

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
通常年会費収入	650,000	総 会 懇 親 会 費	1,200,000
総会懇親会費収入	1,500,000	会 報 発 行 費	700,000
真田町補助金	400,000	事 業 費	600,000
広 告 収 入	750,000	事 務 通 信 費	500,000
寄付金等収入	150,000	印 刷 費	200,000
利息等雑収入	5,676	会 議 費	300,000
		渉 外 費	100,000
		交 通 費	100,000
		雑 費 ・ 手 数 料	100,000
		予 備 費	200,000
前年度繰越金	544,324		
収 入 合 計	4,000,000	支 出 合 計	4,000,000

新任理事 武捨 衛人

退任理事 岩井 泰子

次回総会の予告

平成十三年の総会、懇親会は十月二十七日（土）、アルカディア市ヶ谷（私学公会館）で開催されます。今から予定に入れておいて下さい、そして友人、知人をお誘い下され大勢ご出席賜りますようお願いいたします。追って八月頃にご案内いたします。

広告御礼

日本ダボス第十三号の発行にあたり広告をお願いしましたところ多数の皆様のお申し込みをいただき有難うございました。厚く御礼を申し上げます。

年会費納入のお願い

総会にご欠席の方で平成十二年度の年会費千円を未納の方は同封の郵便振替用紙にてお振込みをお願いします。振込料は無料です。よろしく願います。

寄付御礼

平成十二年度、左記の皆様よりご寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

柳 沢 実様 一万円
長 屋 京子様 一万円
塚 田 恒雄様 一万円
青 木 充紀様 一万円
石 垣 節子様 二万円
羽 田 孜様 二万円（会費）
申 上 げ ます。

～会員消息～

(敬称略)

<新入会員>

青柳 充紀	〒101-0054	千代田区神田錦町 3-20 神田中央ビル10Fあずまや高原ホテル	Tel. 03-5281-0222 (十ノ原)
大久保 實	〒241-0805	横浜市旭区都岡町 284-4 鶴ヶ峰ダイヤモンドマンション706	Tel. 045-951-6238 (大日向)
柄沢 清	〒170-0013	豊島区東池袋 2-13-12 ハイツ空蟬601	Tel. 03-5951-1298 ()
小林 晋	〒110-0016	台東区台東 1-38-5	Tel. 03-3832-1553 (横尾)
小山久美子	〒175-0082	板橋区高島平 2-26-4-410	Tel. 03-3937-0734 (大庭)
所 けさい	〒323-0042	栃木県小山市外城 2-19	Tel. 0285-22-2752 (中横道)
松尾 昭	〒332-0001	川口市朝日 1-25-22	Tel. 048-223-9668 (真田)
柳沢 郁政	〒270-0021	松戸市小金原 8-13-29	Tel. 047-343-3653 (戸沢)

<住所変更>

桑田 博章	〒385-0022	長野県佐久市岩村田字長塚 1743-12	
小林 純雄	〒133-0051	江戸川区西小岩 5-9-21	
坂口 正男	〒278-0032	野田市桜台 204-35	Tel. 0471-23-7320
鈴木 秀水	〒241-0833	横浜市旭区南本町 13	Tel. 045-351-0313
本庄喜美子	〒292-0044	木更津市太田 4-21-13	Tel. 0438-25-5284
堀内今朝夫	〒124-0004	葛飾区堀切 6-28-15	Tel. 03-3603-5761

<退会者>

猪詞 守・尾崎 恒子・坂口 ひろ子・桜井 せん
島田けさ江・安田 節美・山崎 和夫・山本 きぬ江

<物故者>

心よりご冥福をお祈りします。
一之瀬 凱国・上野 きよ江・木島 友和
塩崎 武男・竹内 昭・中沢 清・山口 幸一

編集後記

何時ものことだが今年も表紙の写真を何にするかで迷ってしまった。

幸い、真田中学校の校舎が新しいものになったと知り、決まったが、写真が無い。町の情報政策課と学校のご協力を得て、ご覧の表紙となりました。

情報政策課の柳沢さんはじめ関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

本号では、総会の写真は出来るだけ大勢の人を載せられるようにと心掛けましたが、載らなかった方ごめんなさい。また、近況報告のページも、一人でも多くの方を考え、目一杯に詰めました。多少読みづらい点があると思いますがご容赦下さい。

今回も大勢の皆様から大変素晴らしい原稿をお寄せいただきました。心からお礼申し上げます。

ご意見、ご希望がございましたらお知らせください。次号にも素晴らしい原稿をおまちしております。

写真提供

真田町役場・真田中学校
長屋京子

真田温泉健康ランド ふれあいさなだ館

長野県小県郡真田町大字長7369-1 TEL.0268(72)2500
有線 2230



育ててください

ふるさと結ぶホットラインに

*ふるさと宅急便

*特産物の開発・販売



長野県小県郡真田町大字長七二七八番地の一
財団法人 真田町振興公社

TEL 〇二六八七二二二〇〇
内線 二六一

祝 東京真田町の会 一会報13号一

TKC パートナー 会計グループ

パートナー制による税理士等の事務所
 (株) TKC 東京 パートナー 会計 事務所
 TKC 医療 介護 総研 (株)

〒211-0067 川崎市中原区今井上町34番地

TEL 044(733)1101: FAX 044(733)1102

パートナー代表取締役所長 **関谷義久**(戸沢出身)

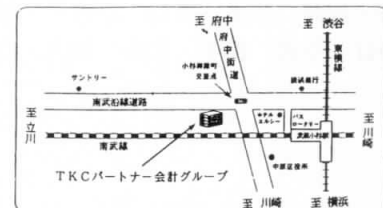
住所 〒211-0063 川崎市中原区小杉町1-404-4 パロス 103 TEL044(711)0055

いよいよ21世紀に突入しました。私たち職業会計人(税理士・公認会計士)の法制も大きく変わることが決定されたところです。敗戦から55年という長い年月が過ぎ、経済発展を担った日本の中小企業を、経営面から支えてきた税理士が、これから制度面で大きく変身するものと見られています。それは、今まで一人で、一ヶ所の事務所でしか仕事をするのを許されず、広範で多様なニーズに応えられなかった税理士が、ここに来てようやく共同形態、つまり法人組織で多面的に有用な仕事ができるようになったのです。長い年月を規制制度の中で過ごし、今や世界で最も遅れてしまった職業会計人の活動が、これから大きく変わっていくものと思われます。当グループも、これから、日本全国を活動舞台として、世界に向け、大きく羽ばたこうとしています。皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

(所属グループと役割)

税理士と公認会計士の組織 TKC全国会
 TKC神奈川会と全国会の顧問

社団法人日本医業経営コンサルタント協会
 常務理事・神奈川県支部長



貿易と国際物流のコンサルタント

貿易物流研究所

所長 **小林孝雄**(曲尾出身)
 (東京真田町の会 顧問)

〒234-0051 横浜市港南区日野4-45-5

TEL : (045) 843-8041

FAX : (045) 843-8041

祝 東京真田町の会 一会報13号一

東京真田町の会

副会長 **荒木孝一**
(真田出身)

〒188-0013 東京都田無市向台町一七七一三〇
TEL 〇四二四一六三三七二〇九

東京真田町の会

理事 **飯島慶三郎**
(下原出身)

〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町二二三三三八
TEL 〇四二二二二一八五九七

飯嶋測量事務所

土地・建物・測量・登記
東京真田町の会 理事

土地調査士 **飯嶋義道**
(中組出身)

〒230-0072 横浜市鶴見区梶山二三八一十一
TEL 〇四五五八一一〇三二四
TEL 〇四五五七一五〇五五

◎点字印刷で

社会福祉事業に貢献する

国際浮出印刷株式会社

代表取締役 **飯嶋徳磨**
(中組出身)

TEL 会社 〇三三三二九二一八七七二
TEL 自宅 〇四八一二六五二二三七四

東京真田町の会

理事 **武捨衛人**
(中組出身)

〒359-1145 所沢市山口五〇四〇一三九一五一四〇五
TEL 〇四二一九四九一四七七六

東京真田町の会

理事 **大久保治夫**
(大日向出身)

〒192-0354 東京都八王子市松が谷二五一一一〇三
TEL・FAX 〇四二六六七七七七一三

東京真田町の会

一級建築士 **荻原啓治**
(四日市出身)

〒168-0063 東京都杉並区和泉四一四二一三三〇一
TEL 〇三三三二一五五九三〇

ビューティサロン テラ

東京真田町の会

理事 **柴田小夜子**
(菅平出身)

〒155-0031 東京都世田谷区北沢一三三三十三
TEL 〇三三三三六七一四〇三五

ティアドルマン

☆本格的紳士服・婦人服オーダーメイド

Tel 〇三三三九一八二八六〇

☆直し専門センター

Tel 〇三三三九一八二二五五
〒170-0002 東京都豊島区巣鴨四一三五二二

久保隆司

不動産管理仲介・建築設計事務所

株式会社ケイ・プランニングオフィス

代表取締役 **塚田勝人**
(戸沢出身)

〒271-0091 千葉県松戸市本町二一〇二二
TEL 〇四七三三六六一五五二三
FAX 〇四七三三六三一一六三九

東京真田町の会

顧問 **清水清晴**
(中横道出身)

〒201-0002 東京都狛江市東野川三三二二二
TEL 〇三三三三八八九一〇七六三

東京真田町の会

理事 **鈴木邦子**
(横尾出身)

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町十七一十二
TEL 〇三三三三九七〇一六九六九

東京真田町の会

理事 **塚田恒雄**
(横尾出身)

〒277-0063 千葉県柏市西山一十一一十八
TEL 〇四七一七五五〇八二三

メナード化粧品

等々力駅前代行店

東京真田町の会

副会長 **中島正江**
(戸沢出身)

〒158-0091 東京都世田谷区中町四一三五一十七E
TEL・FAX 〇三三三七〇二二二三八五

ロシア料理渋谷ログスキー

副社長 調理部長 **長屋京子**
(菅平出身)

本館 渋谷駅南口日本交通公社前大和田ビル2F
渋谷区桜丘十六一十三大和田ビル2F
TEL 〇三三三三六三一一九一一

祝 東京真田町の会 一会報13号一

人と地球に思いやりある環境づくりを目指して
資源愛護と環境保全は企業の責任

一般貨物運送事業、リサイクル推進事業、一般・産業廃棄物処理業

電気自動車 メタノール自動車 CNGトラック

平成9年度東京都環境賞 受賞・東京都知事賞 受賞

みすゞ興業株式会社

代表取締役 荒木 廣之 (真田町下原出身)

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2-10-7 TEL 03 (3966) 2422

自宅 TEL 03 (3965) 4692



勝田電設工業株式会社

電気設備工事設計施工

代表取締役会長 塩 沢 和 政 (大日向出身)

東京真田町の会 副会長

本 社 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町37番2号
TEL・03(3652)8676 FAX・03(3656)3360

東京支店 〒132-0032 東京都江戸川区西小松川町37番2号
TEL・03(3652)8679 FAX・03(3655)8328

千葉支店 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋3丁目39番16号
TEL・047(423)1755 FAX・047(423)0092

茨城支店 〒305-0062 茨城県つくば市大字赤塚610番3
TEL・0298(36)4737 FAX・0298(36)4549

銀座営業所 〒104-0061 東京都中央区銀座1丁目3番3号伊東ビル6F
TEL・03(3561)5822 FAX・03(3561)5832

木更津営業所 〒299-0231 千葉県袖ヶ浦市下泉字勝下20-2
TEL・0438(75)6600 FAX・0438(75)6914

ワシントンポスト紙 (USA) 広告代表

メディア (Hong Kong) 広告代表

株式会社 エム エム アイ

代表取締役 三 井 芳 郎 (大庭出身)

東京真田町の会 会長

自 宅：156-0055 東京都世田谷区船橋1-48-31 TEL03-3482-9333

事務所：103-0026 東京都中央区日本橋兜町19-8 八重洲 KH ビル (7F)

TEL 03-3664-0369 FAX 03-3664-6063

祝 東京真田町の会 一会報13号

(株)アップルサイエンス (コンピュータ関連) 代表取締役社長 山岸 栄 本社 真田町 傍陽 五〇八五 営業所 埼玉県鶴ヶ島市大字三ツ木九二二一 電話 〇四九二一七九一三三三八	埼玉工業大学 工学部電子工学科教授 東京真田町の会 理事 深町 共榮 (田中出身) 〒366-0052 深谷市上柴町西五七七八二 TEL 〇四八一五七二一七五〇	東京真田町の会 理事 司法書士 堀内 寿美 (上横道出身) 〒151-0053 東京都渋谷区代々木二一〇十九 東洋ビル四〇二号 TEL 〇三三三七九一八二	株式会社東部財務情報センター 堀内税務会計事務所 (中横道出身) 堀内 茂雄 〒130-0002 東京都墨田区業平四一九一三 仮事務所・墨田区吾妻橋三二一五二〇二 TEL 〇三三三六二五二二九一 FAX 〇三三三六二二一〇一六四	火災・生命保険・傷害・自動車保険代理店 堀内 寅次 (中横道出身) 〒330-0825 大宮市東新井九三九一六四 TEL 〇四八一六八五二二八二 FAX 〇四八一六八七一九二二二
国画水墨院理事 日本選抜美術家協会理事 国際美術大賞展理事 画家 森本 幹生 (入軽井沢出身) 〒211-0062 川崎市中原区小杉陣屋町一六八 TEL 〇四四一七三三三〇二六七	新お茶の水法律事務所 東京真田町の会 理事 弁護士 山口 元彦 (横沢出身) 〒113-0033 東京都文京区本郷二一三三三湯浅ビル五階 TEL 〇三三三八一五三三四四(代表) FAX 〇三三三八一五三三四一	東京真田町の会 理事 小林 正子 (下横道出身) 〒349-0217 埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜七六八一 TEL 〇四八〇一九二一一〇八四	御殿場市・裾野市・小山町 長野県人会 顧問 柳澤 喜三郎 (萩出身) 〒412-0045 静岡県御殿場市川島田七四八二二 TEL 〇五五〇一八三三〇〇八一	東京真田町の会 理事 堀内 福 (下横道出身) 〒350-1308 埼玉県狭山市中央三二七二二〇三 TEL 〇四二九一五八一五七八

坂上田村麿、蛙合戦、真田城跡…。数々の伝説を育んだ **新しく 墓地完成しました。**
故郷の名刹 実相院に 50 区画

高速道路・新幹線の完成により、都会とふる里の距離は大幅に短縮されました。この機会に、郷里で建墓、御先祖供養と御家族の安らぎを考えてみませんか。

墓地分譲・墓石建立はもとより、新規御入壇のお世話、一代墓、清掃・管理作業まで、実相院様のご指導のもと、誠心誠意ご相談に応じさせていただきます。



お気軽にご相談下さい。

信濃苑

長野県上田市住吉 121-8
TEL・FAX 0268-25-6017

益々躍進を続ける 真田不動産グループ

本社貳番館ビル竣工



壹番館

1F ●特選輸入洋品 WAKO ショールーム ☎03-3620-2411
●総合不動産業 株式会社 真田不動産 ☎03-3620-2511
2F 貸事務所（歯科医院）
3F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション25室所有）

貳番館

1F 店舗
2F～6F IMPERIAL HORIUCHI（賃貸マンション28室所有）



株式会社 真田不動産

代表取締役 堀内 政

〒120-0005 東京都足立区綾瀬6-30-8（WAKO真田ビル1階）

<http://www.sanada-fudosan.com>

自宅：足立区青井4-4-10 03-3840-3211

貳番館

壹番館

WAKO真田本社ビル

新規事業：東京地裁民事21部東京23区全域 不動産競売物件取扱業務

《1999年11月 リアル・タイムスクエア紙の取材記事》

商売繁昌

アパレル業界で磨いたセンスを生かし独自の分譲住宅で躍進

株真田不動産（東京都足立区）

■チャレンジ精神から参入

株真田不動産が店舗を構える東京都足立区綾瀬の営団地下鉄千代田線綾瀬駅周辺には、40～50軒もの不動産会社が立ち並び、同社の堀内政社長は、昭和40年、出身地の長野県を後に単身上京し、アパレル関係の仕事に従事。10年後30歳で特選輸入洋品会社WAKOを設立し、外販専門の紳士服販売を主体として販路を拡張していった。さらに、10年後の昭和61年にはこの地で不動産業界に参入、独自の営業戦略で、早くも2年後には本社ビル（6階建）を完成させ、以来、事業も順風満帆、現



在に至っている。

不動産とは一見何の関わりもない業界から参入したのは、当時は住宅需要が多い時期であり、自分でデザインした住宅がどの程度売れるのかを試してみたいというチャレンジ精神からだ。そして、熱心な研究の末に、外観、インテリア、機能、あらゆるところにアパレル業界で磨いたセンスの良さと、斬新なデザインを取り入れ、独自の分譲住宅を完成させた。堀内社長は「おしゃれな洋服を着てくれるお客さまには、それに見合うおしゃれな家に住んでいただきたいと思いますので、服も家も本当に良いものしか勧めません。特に家は一生で最も高い買物ですから絶対に妥協はしてほしく

ないんです」と語る。品質を高めたため周辺相場より高めの価格となったが、買主からの評判も良く、その後も毎年コンスタントに戸建の分譲を続けた。昨年は、足立区を中心に戸建住宅8棟をいづれも即日で完売させたほか、綾瀬駅近に4階建売ビルを建築し、販売も成功させている。分譲中心の同社では、地価動向・周辺相場の把握と、客付依頼のためにアットホームのファクトシート（図面）を積極的に活用している。「情報の速さ、正確さ、公開ルートの選択の細かさが業務に非常に役立っています」（堀内社長）。

■オーストラリア進出も計画
同社では今後、新たな事業展開としてオーストラリアでの戸建住宅の分譲を計画中で、昨年そのための視察も行った。「オーストラリアでは、日本と同じ規模の戸建住宅が5分の1くらいの価格で建ちます。気候、環境も素晴らしいので、在来邦人向けに物件を手が



代表取締役

堀内 政

けてみたいですね」（堀内社長）と、新しい可能性に挑戦していく考えだ。さらに国内においては、今後都内に割安な更地を買取り、マンション価格ほどで車庫付木造3階建の戸建の分譲を精力的に展開する予定でいる。

今後の抱負について堀内社長は、「当社が軌道に乗れたのも、たくさんの人たちとトラブルなくお付き合いできたからだと思っています。人との繋がりは本当に大事です。ですから、今までどおりお客さま一人ひとりを大切にしていこうという姿勢は絶対に守っていきなさいですね。そして、生れ故郷信州の戦国の武将で名高い真田幸村の志を受け継ぐ者として、名前に恥じないよう頑張っています」と語ってくれた。

日本ダボス（平成12年12月23日発行）

発行 東京真田町の会 会長 三井 芳郎

〒156-0055 東京都世田谷区船橋1-48-31 TEL・FAX 03-3482-9333

編集委員 大久保 治 夫 中 島 正 江 柴 田 小夜子

印刷 上田市・有田活版所